

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	ほるく中原 / 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日 ~		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日 ~		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の配置数が多く、集団活動の中でも個々の課題に取り組める体制が整っている。	それぞれの発達段階や課題を意識して関わられるよう打ち合わせを行うように努力している。	アセスメント力を高め、次のステップにつなげられるような支援力の向上を目指して、打ち合わせや支援会議の充実を図っていく。
2	日常的に連絡ノートや電話・面談を通して、保護者と子どもの様子や発達について共有している。	連絡ノートでの保護者の投げかけには、必ず連絡ノートや電話で対応している。けがなどは、引き渡し時や電話で必ず報告を行っている。子どもの取り組みの様子を写真にして渡すこともある。	相談の機会を増やしていく、通信などを充実させ活動の様子がわかるようにするなどの工夫をしていく。
3	地域の公園にきている母子との交流がある。	毎日短時間近くの公園に出かけるようにし、遊びに来ている母子と交流できるようにしている。職員が率先して声を掛けたり、おもちゃの貸し借りをしている。	事業所に招くような取り組みに発展させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会 保護者の交流 家族が参加できる研修の機会や情報提供	在籍人数が少ない上、状態像が大きく違う	放課後等デイサービスの保護者も視野に入れて単年度で考えずに行う工夫をする。
2	参加できる研修の機会などの不足	在籍人数が少ない上、状態像が大きく違うのでポイントが絞りにくい。	法人内職員の協力を得る工夫。
3	地域住民を招待地域に開かれた事業運営	小さな事業所であり、迎え入れる人数とマンパワーに限界がある。	少人数でできるときに事業所開放日を模索してみる。